

令和元年度(第86回)日本歯科大学北海道地区歯学研修会



人生100年長寿社会に求められるもの ～ オーラルフレイルと口腔機能検査を考える ～

日時 | 令和元年9月28日(土)

場所 | 札幌グランドホテル(北海道札幌市)

主催 | 日本歯科大学校友会

日本歯科大学歯学会

北海道日本歯科大学校友会

札幌グランドホテル 案内図



札幌市中央区北1条西4丁目

☎ 011-261-3311



アクセス

- ・ JR札幌駅から徒歩約10分、地下鉄南北線さっぽろ駅から徒歩約5分
- ・ 地下鉄東西線、南北線大通駅より徒歩5分
- ・ 地下歩行空間利用の場合、8番出入口横の札幌グランドホテル専用口を利用



駐車場

- ・ 133台収容可能（宿泊の場合は1泊につき1,500円）

令和元年度(第86回) 日本歯科大学北海道地区歯学研修会

令和元年9月28日(土)

会場 札幌グランドホテル

13:00	受付開始		
		司会 北海道日本歯科大学校友会専務理事	小 谷 勝
14:00	開会の辞	北海道日本歯科大学校友会副会長	多 田 和 央
	会長挨拶	北海道日本歯科大学校友会会長	金 井 義 明
	校歌斉唱		
	来賓挨拶	日本歯科大学校友会会長	近 藤 勝 洪 先生
		日本歯科大学歯学会会長	渡 邊 文 彦 先生
14:30	学長講演		
	「日本歯科大学は今」	日本歯科大学理事長・学長 日本歯科大学校友会会頭	中 原 泉 先生

テーマ 人生100年長寿社会に求められるもの ～オーラルフレイルと口腔機能検査を考える～

15:00	講演 1	座長 北海道日本歯科大学校友会学術部長	小 川 優
	「オーラルフレイルへの対応」	新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座准教授	水 橋 史 先生
16:00	質疑応答		
16:30	講演 2	座長 北海道日本歯科大学校友会副会長	宮 川 明
	「健康寿命延伸のための口腔機能検査の活用」	生命歯学部歯科補綴学第1講座教授	志 賀 博 先生
17:30	質疑応答		
17:45	閉会の辞	北海道日本歯科大学校友会副会長	岩 寺 環 司
17:50	記念写真撮影		
18:00	懇親会	司会 北海道日本歯科大学校友会事業企画部長	谷 村 善 広

日本歯科大学校歌

作詞：小暮英男 / 校閲：児玉花外 / 作曲：近藤栢次郎 / 編曲：前田俊明

お お ぞ ら な が る る あ か つ き の
 か ね の ひ び き に あ け ー そ む る ー
 ふ よ う は っ だ の す が た こ そ わ
 れ ら が ぼ こ う の ま も り な れ ー
 ち は よ し く だ ん ふ じ ー み は ら な
 は よ し に ほ ん し か だ い が く

大空流るる暁の

鐘の響きに明け初むる

芙蓉八朶の姿こそ

吾等が母校の守りなれ

地はよし九段富士見原
 名はよし日本歯科大学

高鳴る血潮の香をのせて

岸打つ文化の波頭

振り立つべき同胞の

甘幸もたらず学徒われ

地はよし新潟浜の浦
 名はよし日本歯科大学

今さし出ずる朝日子の

平和と愛との輝きに

照りそう真紅の光こそ

吾等が母校の使命なれ

地はよし九段富士見原
 名はよし日本歯科大学

日本歯科大学は今

中原 泉 (なかはら せん)

日本歯科大学理事長・学長
日本歯科大学校友会会頭



本年、日本歯科大学は創立113周年を迎えました。

この113年目の年に、私どもの日本歯科大学は、社会や斯界のなかで、どのような立ち位置にいるか。それは、おのおのの先生方の判断と評価に由ります。

私は、先生方が、母校をどのような視点から見られるかを考えながら、先生方から見えにくい、また見落としている母校の一面を知って頂きたいと思います。

そこで本日は、母校の見方について私見を述べさせていただきます。

講演 1

オーラルフレイルへの対応

水橋 史 (みずはし ふみ)

日本歯科大学新潟生命歯学部
歯科補綴学第1講座 准教授



日本における65歳以上の高齢者人口の割合は増加をし続け、2018年には過去最高を更新して28.1%となり、2040年には35.5%になると見込まれています。このように総人口が減少する一方で高齢者人口が増加している超高齢社会の日本では、平均寿命と健康寿命との差が男性で約9年、女性で約12年にも達していることが問題となっています。厚生労働省は、この健康寿命を2040年までに3年以上延ばす目標を掲げ、フレイルの予防対策をすすめています。

フレイルは、加齢に伴い身体機能が低下した状態をいい、健康寿命の範囲内で要介護状態の前段階にあり、適切な介入により回復することが含まれています。歯科ではオーラルフレイル（滑舌低下、わずかのむせ・食べこぼし、噛めない食品の増加）と口腔機能低下症（口腔衛生状態不良、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下）の状態を指しますが、最近では両者を合わせてオーラルフレイルあるいは口腔機能低下症と呼ばれております。オーラルフレイル（口腔機能低下症）から摂食嚥下障害へと悪化させないためには、現在来院している患者の口腔機能を把握して、必要な早期の介入を行うことで健康な状態に回復することが重要です。

患者の口腔機能状態は、口腔機能低下症の診断基準となっている口腔機能検査を行うことで把握することができます。口腔内環境については、口腔衛生状態をTongue Coating Index (TCI)：舌苔付着度で確認し、口腔乾燥に対しては、口腔水分計による湿潤度検査やサクソンテストによる唾液量検査で判断します。咬合力低下は、デンタルプレスケールによる咬合圧検査や残存歯数を用いて評価し、舌・口唇運動機能低下に対してはオーラルディアドコキネシスの検査を行い、低舌圧は舌圧測定で評価します。咀嚼機能低下はグミゼリーを用いた咀嚼能率検査や咀嚼能率スコア法を用いて評価し、嚥下機能低下は摂食嚥下スクリーニング質

問紙票や聖隷式嚥下質問紙で評価します。オーラルフレイルが疑われた場合には、これらの検査を行い評価することで、必要な対応を行うことが可能であると考えます。

欠損補綴治療に来院する患者も高齢化が進んでおり、80歳以上の患者を診ることがほとんどになりました。高齢者になると、筋力の低下が生じ、口腔や咽頭、舌の筋力低下から咀嚼障害や嚥下障害が生じてきます。唾液分泌量も減少し、口腔乾燥を生じてきます。残存歯数の減少に伴い義歯を使用し、咀嚼機能は天然歯よりも低下してきます。まさに、オーラルフレイルそして口腔機能低下症を生じ得る状態です。日常の臨床において患者を観察していると、うがいをする際にむせを生じていることがあります。また、義歯を使用している患者の口腔内を見ると、口腔乾燥を生じている場合がほとんどで、口渴を起こす薬剤を服用していることが多いです。このような状態を放置せずに、改善するようなアプローチが大切です。

本講演では、オーラルフレイルの概念、そしてその評価と対応について、お話をさせていただきたいと思います。

略 歴

- 平成12年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 平成16年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科修了
日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第3講座助手
- 平成18年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第3講座講師
- 平成21年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座講師
- 平成25年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第1講座准教授

所属学会

日本補綴歯科学会, 日本老年歯科医学会, 日本顎関節学会, 日本スポーツ歯科医学会,
日本全身咬合学会, 日本歯科医学教育学会, 歯科基礎医学会

健康寿命延伸のための 口腔機能検査の活用

志賀 博 (しが ひろし)

日本歯科大学生命歯学部
歯科補綴学第1講座 教授



厚生労働省の資料では、歯科治療の将来予想において、人口構成の変化や歯科疾患罹患状況の変化に伴い、「歯の形態の回復」を主体としたこれまでの「治療中心型」の歯科治療だけでなく、各個人の状態に応じた口腔機能の維持・回復（獲得）を目指す「治療・管理・連携型」の歯科治療の必要性が増すことが予想されています。

介護を必要とせず自立して生活できる生存期間である健康寿命は、平均寿命との間に約10年もの差があります。そこで、健康寿命を延ばす多くの試みがなされており、厚生労働省の「健康日本21」では、健康寿命の延伸のために健全な口腔機能の維持及び向上が設定されています。

加齢に伴い身体機能が低下しますが、この状態を日本老年医学会は、健康寿命の範囲内で要介護状態の前段階にあるとし、「フレイル」と定義しています。この「フレイル」の解釈について、日本老年医学会はステートメントを公表し、“これまで「虚弱」が使われているが、「老衰」、「虚弱」、「脆弱」といった日本語訳も使われることがあり、「加齢に伴って不可逆的に老い衰えた状態」といった印象を与えてきた。しかしながらフレイルには、しかるべき介入により再び健全な状態に戻るという可逆性が包含されている。従って、フレイルに陥った高齢者を早期に発見し、適切な介入をすることにより、生体機能の維持・向上を図ることが期待される。”としています。歯科においては、口腔機能の低下を評価し、適切な介入による口腔機能の維持・向上を図ることが期待されるといえます。

口腔機能の障害の程度、歯科治療による口腔機能の回復・維持の程度を客観的に評価し、患者に呈示するためには口腔機能検査が必要です。ただし、臨床で用いるためには、有効・安全であることに加えて操作が容易でかつ短時間で行えなければなりません。

演者らは、特別な知識を必要とせず、誰でも容易に短時間で行うことができる咀嚼機能検査法（下顎運動測定法と咀嚼能力検査法）を開発し、臨床応用してきました。その結果、有床義歯装着者に対し、平成23年（2011年）に「有床義歯補綴治療における総合的咬合・咀嚼機能検査」として先進医療に導入され、全国の8歯科大学附属病院で実施され、平成28年（2016年）に「有床義歯咀嚼機能検査」として保険収載されました。なお、咀嚼能力検査法は口腔機能低下症の客観的評価の1つとしても適用されています。

有床義歯は、天然歯列とは異なり、義歯床に連結された人工歯列が1つのユニットとして顎堤粘膜に支持され、口腔内に維持されて機能を営みますので、義歯床の安定が最優先条件であり、咬合状態が主要な役割を担っています。この有床義歯の咬合は有歯顎の咬合とは異なった対応が必要であり、また機能的な面でも独自の咬合を構築することが可能であるといわれてきました。しかしながら、口腔機能検査の併用により、良好な咀嚼機能を営むための新たな咬合理論が確立されつつあります。

そこで、本講演では、当講座で開発した新医療技術である咀嚼機能検査法のあらましを説明させていただくとともに良好な咀嚼機能を営むための咬合について、私見を述べさせていただきます。

略 歴

- 昭和54年 同志社大学工学部電子工学科卒業
- 昭和61年 日本歯科大学歯学部卒業
- 平成2年 日本歯科大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)
- 平成2年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座助手
- 平成3年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座講師
- 平成4年 アメリカ・ミシガン大学歯学部客員講師(平成5年まで)
- 平成7年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座助教授
- 平成16年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座教授(現在に至る)

所属学会

日本補綴歯科学会(副理事長), 日本咀嚼学会(理事長), 日本顎口腔機能学会(常任理事),
日本全身咬合学会(常任理事), 日本顎関節学会, 日本口腔インプラント学会,
日本老年歯科医学会, 日本口腔顔面痛学会, 日本デジタル歯科学会,
International Association for Dental Research, International College of Prosthodontists

令和元年度日本歯科大学北海道地区 歯学研修会準備委員会

準備委員長

志賀 博 (75回) (日本歯科大学歯学会副会長)

準備副委員長

石川 明子 (70回) (日本歯科大学校友会常務理事)
金井 義明 (66回) (北海道日本歯科大学校友会会長)
大西 良近 (66回) (北海道日本歯科大学校友会副会長)
宮川 明 (68回) (北海道日本歯科大学校友会副会長)
岩寺 環司 (69回) (北海道日本歯科大学校友会副会長・札幌支部長)
多田 和央 (70回) (北海道日本歯科大学校友会副会長・室蘭支部長)

準備委員

小谷 勝 (70回) (北海道日本歯科大学校友会専務理事)
椿田 恵三 (75回) (北海道日本歯科大学校友会函館支部長)
北野 善丸 (64回) (北海道日本歯科大学校友会旭川支部長)
加藤 康男 (71回) (北海道日本歯科大学校友会北見支部長)
高岡 慈郎 (74回) (北海道日本歯科大学校友会釧路支部長)
石橋 知代子 (77回) (北海道日本歯科大学校友会小樽支部長)
鈴木 慎一 (69回) (北海道日本歯科大学校友会十勝支部長)
千枝 和巨 (74回) (北海道日本歯科大学校友会苫小牧支部長)
竹内 康友 (71回) (北海道日本歯科大学校友会岩見沢支部長)
関 茂 (62回) (北海道日本歯科大学校友会空知支部長)
黒田 準一 (62回) (北海道日本歯科大学校友会後志支部長)
稲垣 宏之 (72回) (北海道日本歯科大学校友会千歳支部長)
土井 統雄 (65回) (北海道日本歯科大学校友会日高支部長)

実行委員 (北海道日本歯科大学校友会理事)

長谷川 芳樹(空知)	細野 富一(旭川)	杉本 力康(函館)
佐藤 大一(北見)	松浦 由紀江(釧路)	佐藤 真弓(小樽)
南館 直人(十勝)	高嶋 敏幸(苫小牧)	旗手 一永(岩見沢)
高橋 克弥(岩見沢)	鳥山 勇人(岩見沢)	奥村 功一(室蘭)

(以下札幌)

斎木 章	尾崎 勝巳	伊藤 文人	庄内 喜久子
塚本 晃也	谷村 善広	小川 優	尾崎 純一
桜田 元樹	川野 正嗣	挽地 俊哉	桜田 明宏
菊池 修司	小池 英二	渡部 圭吾	平川 裕香
山下 美里	宮脇 雅裕	柳 英二	渊崎 智一
安部 圭太郎	坂田 直彦	山口 貴弘	呉 英理

中田 久夫(北海道日本歯科大学校友会監事)

山田 宏一(北海道日本歯科大学校友会監事)

memo

〈ご案内〉 令和2年5月16日(土)室蘭支部主管にて第81回北海道日本歯科大学校友会定時総会
 が登別温泉において開催されます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

表紙：登別温泉 鬼花火

幸せを願い、人々の厄を持ち去りするために、打ち上げる一。鬼花火伝説の語り継がれる地獄谷に棲む「湯鬼神（ゆきじん）」たちが、
 噴火のごとく迫力たっぷりの鬼花火を夜空に放ちます。今年は6月1日～7月26日 期間中の木・金曜日に開催

裏表紙：登別温泉 地獄まつり

毎年8月の最終土曜日・日曜日に、登別温泉の地獄谷から地獄の釜のふたが開いて、閻魔（えんま）大王が鬼たちを引き連れて登別
 温泉を訪れるという伝説をもとにした祭りです。登別太鼓や登別市立登別中学校の生徒が担ぐ鬼みこし、鬼踊りなどがあり、年に
 一度の地獄祭りの日だけ、温泉街の極楽通りを閻魔大王が練り歩くのは必見。今年は8月23日～8月25日に開催

(登別国際観光コンベンション協会ホームページより抜粋)

